

## 10. 茶

現状と課題	目指すべき姿
本県の茶は、中山間地域や離島に多く栽培されており、他県と比較して小規模の経営体が多い。また、高齢化が進行してきており、省力化・軽労化技術の確立、普及を図る必要がある。	農地集積による規模拡大や優良品種の導入とあわせて、ドローンによる防除やラジコン草刈機による除草、ロボット中切機による茶園管理の省力化・軽労化の実現

作業	導入する技術とその効果	必要経費
除草	 <p>ラジコン草刈機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗用型管理機械が巡回する枕地や茶園周辺でのラジコン草刈機による省力化</li> </ul>	本体： <b>1,000～3,500千円</b>
防除	 <p>ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>傾斜地等条件が悪い茶園におけるドローン防除により、慣行防除と比較して防除作業時間の短縮が可能</li> </ul>	本体： <b>800～3,000千円</b> バッテリー： <b>75～250千円/1セット</b> 講習： <b>250千円</b>
茶樹の更新	 <p>茶園用ロボット中切機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茶園用ロボット中切機による茶樹の更新作業により、作業者の負担軽減、作業時間の短縮が可能</li> <li>既存機では、3往復で中切りするところ、ロボットでは1往復で完了するため約<b>40%</b>程度の労働時間削減が可能</li> </ul>	本体： <b>約14,000千円</b>